

【主な質疑応答】2022年12月期 第2四半期 決算説明会

【全社】

- Q. オセアニアのフレッシュコーヒー事業の売却益や円安の影響もあるなか、通期計画を修正しない理由は？下期にリスクがあるのか？
- A. 日本を初めとした北半球は第3四半期が最盛期であり、動向を見なければいけない。下半期以降、原材料・エネルギー価格高騰の影響が我々の想定以上に出てくる可能性が高いことや、世界各国における消費者動向の変化、コロナウイルス感染の再拡大リスクもある。為替の円安影響と事業売却益は上振れ要因だが、引き続き不透明な要素が非常に多いこともあり、年初業績予想を据え置く。
- Q. 今期、国内外の原材料価格高騰の影響はどの程度か？来期以降の見解は？
- A. 上期は日本で為替及び原材料市況により対前年94億円の悪化。海外も同程度以上の悪化。市況変動のぶれが大きく、日々変化していることから、通期の予測は困難な状況。足元、市況の軟化も見られるが、当初想定の上を2倍を超える影響は見込まざるを得ない。今期がこのような状況の中、来期も非常に予測困難であり、具体的な回答はご容赦いただきたい。

【日本】

- Q. 下期以降、価格改定によって利益率改善は達成可能？手応えは？
- A. 売上と利益の成長、そして利益率改善、その3つを指標に取り組んでいる。原材料市況はコントロール不可能だが、それ以外の部分で最大限コントロールしていく。上期も、利益額・利益率改善に向けた活動をできる限り実施してきた。簡単に価格改定ができない環境で、秋には価格改定を行う。ただ、現在、原材料価格高騰が常軌を逸するような状況で、先々が予測できない。加えて、価格改定後の最終単価についても、現時点では予測が困難。利益率改善へ向け引き続き懸命に努力するが、もう少しそうした状況を見極める必要がある。
- Q. 第2四半期の販売単価下落要因は？改善のタイミングは？
- A. 単価下落要因はチャネルミックスの変化が主因。スーパー、CVS、自販機すべて伸長したが、スーパーは2桁伸長、自販機は1桁前半の伸長。その差が影響。自販機・CVSともに徐々に回復するとみており、徐々に単価も改善していくと見ている。

【海外】

- Q. 第2四半期実績は会社計画に対し、各リージョンでどうだったのか？
- A. APACは、第2四半期、上期ともに計画通りの進捗。とりわけベトナムは、利益も想定を上回る。オセアニアは上期、特に第1四半期にコロナの影響を受け、また、ガソリン価格高騰でCVSが落込み、計画未達。欧州は第2四半期、上半期ともにコアブランドは非常に好調。RGM(レベニューグロスマネジメント)活動の成果もあり、売上収益、利益ともに計画達成。米州は、第2四半期の売上収益はほぼ想定通り。営業利益は、物流費、人件費の高騰でやや想定を下回ったものの、上期では売上収益、利益とも計画達成。
- Q. 各リージョンの利益、下期の想定は？
- A. 原材料価格・エネルギー価格の高騰の影響が重要な要素であることは間違いない。APACは、ベトナムが非常に好調で、需要は底堅い。タイは、足元弱含みではあるが、観光需要の回復がプラス要因に働くだらう。欧州は、現時点では強い需要を維持。価格改定を含めたRGMの徹底で、一定の利益は確保可能と見ている。米州は、欧州とほぼ同様。
- Q. 欧州。価格改定による消費者の反応は？海外全体で、追加価格改定を検討？
- A. 数量影響はなく、非常に強い需要が継続しているのが現在までの状況。追加価格改定は、ほぼ全域で検討中。